

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第6回幹事会議事メモ

- 1 日時：平成31年2月12日(火)10時00分～11時00分
- 2 場所：防災科学技術研究所 東京会議室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤
陪席者：阿部（防災科学技術研究所）、中島（〃）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）、松原（〃）（敬称略）
- 4 議事
(1) 平成31年度コンソーシアム活動計画について（資料1, 2、別添資料1）

(2) 台湾出張の日程について（資料3～6）

(3) 2019年度客員教員・非常勤講師について（回収資料1, 2）

(4) インターンシッププログラム参画機関について（資料7）

(5) その他

（配付資料）

- 資料1 2019年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム年間活動計画（案）……P.1～
- 資料2 Joint Seminar 減災概要……P.3～
- 資料3 Outline of the 5th Steering Committee ……P.5～
- 資料4 台湾出張者リスト ……P.7～
- 資料5 Poster of Risk and Resilience Seminar in Taiwan……P.9～
- 資料6 CiC協定について ……P.11～
- 資料7 インターンシッププログラム参画機関状況一覧……P.13～
- 別添資料1 筑波会議について
- 回収資料1 平成31年度リスク工学専攻客員教員一覧
- 回収資料2 平成31年度リスク工学専攻非常勤講師一覧

2019年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム年間活動計画（案）

年月	総会・運営委員会	幹事会
2019年 4月		第7回幹事会
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第4回総会（見学会含む） 日本自動車研究所（つくば市） 候補日時：5月29日(水)、6月3日(月)、 6月6日(木)、6月7日(金) 各日 13:30- </div>	
6月		
7月		第8回幹事会
8月		
9月		第9回幹事会
10月	筑波会議 10月2日(水)～3日(木)のうち1日間 つくば国際会議場（つくば市） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 第6回運営委員会 </div>	
11月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 第10回幹事会 </div>
12月		
2020年 1月	第7回運営委員会 Joint Seminar 減災シンポジウム （神戸市）	
2月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 第11回幹事会 </div>
3月	第8回運営委員会	

運営委員会未開催の機関（2019年4月1日時点）

日本電気、スリーエム ジャパン、DRI ジャパン、電力中央研究所、日本自動車研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

2018

2017

災害対応研究会
Archive

Joint Seminar 減災とは

本研究会は、災害対応研究会と関西大学社会安全研究センターとの共催によって平成29年度より発足しました。土木学会関西支部緊急対応分科会に端を發し23年の歴史がある災害対応研究会（代表：林 春男 京都大学防災研究所特任教授／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）と、社会安全学の創設、その現実社会への適用、政策立案などを推進する関西大学社会安全センター（河田 恵昭 センター長・特別任命教授）が共催をすることで、わが国を代表する防災に関する研究会として更なる高みを目指していきます。

年4回の研究会のうち、7月、10月の開催は、会員(約300名)向けのクローズド形式で、1月の開催は、公開シンポジウムとして開催します。

Joint Seminar 減災 代表 河田 恵昭（関西大学社会安全研究センター センター長・特別任命教授）
林 春男（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長）

年間スケジュール

2018年度

■年間テーマ■ 「レジリエントな組織・地域を目指す事業継続・業務継続・事前復興」

南海トラフ地震や首都直下地震、激甚化する気象災害、CBRNEなどの発生可能性が危惧されています。災害発生後、いかにレジリエントに事業・業務中断時間を短く早期復旧し、地域においては復興につなげていくかという、事業継続・業務継続・事前復興の考え方や実践について学んでいきます。

第1回 「企業の事業継続」	4月27日(金) 14:00~17:00
第2回 「地域の復興計画」	7月27日(金) 14:00~17:00
第3回 「ワールドをたずねて」	10月26日(金) 14:00~17:00
第4回 「神戸国際防災のつどい2019」	2019年 1月17日(木) 15:00~18:00

Outline of the 5th Steering Committee (Plan)

【Title】 The 5th Steering Committee of Resilience Research and Education Promotion Consortium

【Outline of contents】

Outline: In Steering Committee, we would deliberate and report concerning next fiscal year's activity plans of Consortium and preparation of degree programs and so on.

Program includes Risk and Resilience Seminar for the people in disaster-related institutions in NCDR building, tour to NCDR for attendance from Japan, and tour to disaster prevention related and cultural facilities currently, and Taiwan Secom Co., Ltd.

Schedule: March 26 (Tuesday) and 27 (Wednesday), 2019

Venue: National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR)
Union Development Building (Taiwan)

Attendee: 24 people from Japan

Program (plan)

<1st Day March 26th Tuesday 2019>

9:20(JST)	Depart from HANEDA Airport (NH851)*23 people, 1 person (Mr. Sanami) will arrive the previous day (on 25th). (羽田発)
12:30(CST)	We will arrive at Taipei Songshan Airport (台北松山発) (The bus from NCDR will pick us and go to NCDR directly.)
14:00-15:00	We will arrive at NCDR and hold the 5th Steering Committee (We also enjoy lunch.) (第5回運営委員会)
15:30-17:00	Risk and Resilience Seminar (including Q&A) (リスク・レジリエンスセミナー)
17:00-18:30	Tour to NCDR and Central Emergency Operation Center → Convivial Party (by bus) (NCDR 見学会)
19:00-21:30	Convivial Party → Hotel (The Landis Taipei) (懇親会)

<2nd Day March 27th, Wednesday 2019>

8:30-15:00	Hotel → Disaster prevention facilities in Taipei City Tour including National Taiwan University and Lunch (NCDR will plan) (台湾大学訪問、ランチを含む台北防災関係施設ツアー) * Mr. Nakajima will move to Songshan Airport by a taxi offered by NCDR at 14:30. He will depart from the airport at 16:50 (NH854). (中島氏が帰路へ)
15:00-18:00	Taiwan Secom Tour (NCDR will lend a bus and a driver) → Hotel (The Landis Taipei) (台湾セコムツアー)

<3rd Day March 28th, Thursday 2019>

	Go to Taipei Songshan Airport by ourselves Go back to Japan by each airline
--	--

NCDR will be in charge of a bus.

NCDR will be in charge of our lunch and Convivial party on 1st Day.

NCDR will cover cost of ground transportation, lunch and dinner on March 14.

** In seminar, President Hayashi (NIED), Vice-President Amari (SECOM), Professor Endo of this Consortium would lecture in English for people of NCDR building. We appreciate if you reserve a room which accommodates all attendee, and is able to use a projector, a screen, microphone, and Wi-Fi.

台湾出張者リスト

※国内交通費、現地交通費、日当については、各機関でご負担ください。
 ※輸出管理については、各機関でお手続きください。
 ※ホテルは、全員「The Landis Taipei」です。

出張者 24名 (敬称略)

機関	所属・職名	氏名	行き便 (原則、3/26 NH851 羽田 9:20-松山 12:30)	帰り便 (原則、3/28 NH852 松山 13:30-羽田 17:30)
セコム 2名	IS 研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	甘利 康文		
	IS 研究所 主務研究員	平岡 良彦		
大日本印刷 2名	研究開発センター 課長	佐波 晶	3/25 NH853 羽田 12:40-松山 15:50	3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
	研究開発センター	前田 賀隆		
スリーエム ジャパン 2名	国土強靱化プロジェクト本部 統轄技術部長	飯野 誠司		3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
	常務取締役 CTO	Liu Qiao		3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
DRI ジャパン 2名	理事	見目 久美子		3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
	理事	真城 源学		3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
電子航法 研究所 1名	航空交通管理領域 領域長	中島 徳頭		3/27 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
産業技術 総合研究所 2名	安全科学研究部門 研究部門長	緒方 雄二		
	安全科学研究部門 主任研究員	竹下 潤一		
防災科学 技術研究所 3名	理事長	林 春男		3/28 NH5808 桃園 8:50-成田 12:55
	企画部 部長	阿部 浩一		3/28 NH5808 桃園 8:50-成田 12:55
	企画部社会連携課 係員	前山 明輝		3/28 NH5808 桃園 8:50-成田 12:55
筑波大学 10名	システム情報系 教授 リスク工学専攻長	遠藤 靖典		
	システム情報系 教授	岡島 敬一		
	システム情報系 教授	鈴木 勉		3/28 NH854 松山 16:50-羽田 20:40
	システム情報系 准教授	梅本 通孝		
	システム情報系 助教	高安亮紀		
	システム情報エリア支援 室 支援室長	石濱 悟		
	グローバル・コモンズ機 構 主任	衛 絢子		
	システム情報エリア支援 室 一般職員	佐久間裕之		
	システム情報エリア支援 室 一般職員	鈴木 朋美		
システム情報エリア支援 室 プロジェクトマネージャー	松原 悠			

Risk and Resilience Seminar “Creating Safety and Security”

~ The aim of Resilience Research and Education Promotion Consortium ~

Host: Resilience Research and Education Promotion Consortium

March 26, 2019, 15:30-17:00

Venue: Central Emergency Operation Center

Tuition free

Aim

As a background, natural disasters happened in recent years, to create safe and secure lands, communities, and economic societies with “Strength” and “Flexibility”, that is to realize resilience society, is a common issue shared by Taiwan and Japan.

In this seminar, Consortium which National Science and Technology Center for Disaster Reduction has participated would transmit our activities for realization of the resilience society.

15:30-15:35: Opening Address (NCDR?)

15:35-15:45: Graduate Education which Promoted by the Consortium
--New Master's/Doctoral Program by Collaborative Graduate School Program—
(コンソーシアムが推進する大学院教育～協働大学院方式による新たな学位プログラム～)

Yasunori Endo (Professor of Faculty of Engineering,
Information and Systems / Chair of Department
of Risk Engineering of University of Tsukuba)



15:45-16:10: Improvement of Resilience Against for Risk of Natural Disaster

(自然災害のリスクに対するレジリエンスの向上)

Haruo Hayashi (President of National Research Institute for
Earth Science and Disaster Resilience)



16:10-16:35:

Yasufumi Amari (SECOM Co.,Ltd, IS Laboratory,
Group leader of Risk Management Group)



16:35-16:55: Questions and Answers

16:55-17:00: Closing Address (Dr. Wei-Sen?)

For preparation, please pre-registry until March 18th, 2019.

Participate on the day is also available.

Pre-registry URL : <https://> _____ (コンソサイト内で事前登録受付)



Inquiry: Resilience Research and Education Promotion Office

E-mail : r2ec@risk.tsukuba.ac.jp Tel : +81-29-853-4975

Campus-in-Campus協定校への留学について

Campus-in-Campus(CiC)とは、CiC協定を締結した海外のパートナー大学との間でキャンパス機能を共有し、国境や機関の壁を越えた教育研究交流を実現する取組です。ここでは、各CiC協定校の特徴と、CiC協定校との間で構築している科目ジュークボックスを活用した留学の特徴についてご説明します。

Campus-in-Campus協定校マップ(2018年2月現在:7校)



【上記のうちCiCとしての交換留学の対象校:5校】

	ボルドー大学	グルノーブルアルプ大学	マレーシア工科大学	国立台湾大学	サンパウロ大学
国・地域	フランス	フランス	マレーシア	台湾	ブラジル
科目ジュークボックス登録科目数	約400科目	準備中	約80科目	約500科目	約100科目
現地オフィス	○	—	○	○	○
特徴	フランストップクラスの研究大学。	フランストップクラスの研究大学で、研究学園都市に立地。	マレーシア政府から研究大学の指定を受けた5大学のうちの一つ。	台湾トップの総合大学。	ブラジルトップの総合大学。

※カリフォルニア大学アーバイン校およびユトレヒト大学については、CiCとしての交換留学を対象としない研究パートナーのため、上表には掲載しておりません。

Campus-in-Campusを活用するメリット



特徴1 人数制限の無い交換留学

CiC協定校とは、従来の国際交流協定とは違い特別な協定を締結しています。

従来の国際交流協定では、各協定校との間で学生の派遣・受入れを行うことができる人数に上限が設けられており、希望者が多い場合には参加できないこともありましたが、CiC協定校との間では、科目ジュークボックスを活用した留学や大学院生による研究目的での留学について人数制限を無くし、本学の推薦があれば誰でも海外留学に挑戦できるようにしています※1。

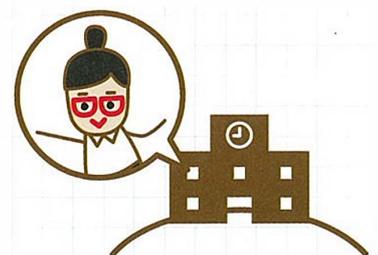
※1 カリフォルニア大学アーバイン校およびユトレヒト大学についてはCiCとしての交換留学は対象外となっています。



特徴2 現地オフィスによるサポート

CiC協定校には、一部を除き筑波大学の現地オフィスを設置しており、本学の教員または職員が常駐しています。留学中に困ったことがあれば、お気軽にお立ち寄りください。

気軽に来てね!





科目ジュークボックスを活用した留学について

科目ジュークボックスとは、各CiC協定校との間で授業科目を共有する仕組みであり、学生は留学前に自分の専門や関心に合った授業科目を検索した後、実際に現地に行って希望する授業科目を履修することができます※1。

また、各CiC協定校から提供されている授業科目は原則として英語で実施される授業のみとなっております※2、2018年2月現在、国立台湾大学、ボルドー大学、マレーシア工科大学、サンパウロ大学から約1,100の授業科目が登録されています。今後も順次拡大していく予定ですので、最新情報は以下の科目ジュークボックスウェブサイトにてご確認ください。

【科目ジュークボックスウェブサイト】

<https://cj.tsukuba.ac.jp/ja/>



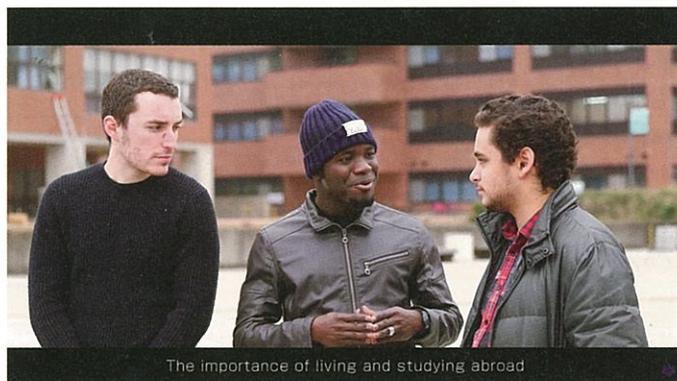
なお、申請方法については、他の協定校への通常の交換留学と一緒に募集しておりますので、本冊子の該当ページ **P.4** をご確認ください。

※1 履修した単位は、各教育組織の承認の下で本学の単位としても認定されます。また、2018年より、単位互換のモデルケースとなる情報の掲載を開始しました。現在は未だ情報が多くありませんが、今後、順次情報を追加していきますので、最新情報は科目ジュークボックスウェブサイトにてご確認ください。

※2 留学者のニーズを考慮して、一部現地語・現地文化に関する科目も登録しています。

【CiCと科目ジュークボックスの紹介動画】 - The whole world is your campus -

<https://www.youtube.com/watch?v=buNlgOlyu84>



◆CiCおよび科目ジュークボックスに関する問い合わせ先 sp.global@un.tsukuba.ac.jp



特徴3

充実した経済支援

CiC協定校への海外留学については、筑波大学海外留学支援事業(はばだけ！筑大生)の「国際交流協定校交換留学支援プログラム」や「キャンパス イン キャンパス(CiC)等支援プログラム」、日本学生支援機構による奨学金などを活用し、留学に伴う経済支援を充実させています。詳しくは、本冊子の奨学金のページ **P.42-43** をご覧いただくとともに、本学公式ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。



特徴4

多彩なプログラム

各CiC協定校とは、科目ジュークボックスを活用した留学や大学院生による研究目的での留学のほかにも多くの留学プログラムを構築しています。

本冊子では、プログラム形態に応じて留学プログラム一覧を掲載 **P.22-27** していますので、詳細はそちらでご確認ください。

また、大学院レベルのダブルディグリープログラムやジョイントディグリープログラムへの進学を希望する方は、以下のURLをご確認ください。

http://www.tsukuba.ac.jp/organization/pdf/ddp_jdp_list.pdf



機関	参画/ 不参画	種別 短期：2週～1か月 中期：1～2か月 長期：2～3か月	時期	協定締結実績	備考
セコム	参画	中期・長期	応相談	なし。学生の参加申請ごとに協議	
大日本印刷	未回答				
日本電気	不参画				
スリーエム ジャパン	不参画				
DRI ジャパン	参画	短期・中期・長期	応相談	なし。検討中	ニューヨークにて実施、日英間で要検討のため2020年度になる可能性も
電力中央研究所	参画	短期	2019.7 ～2019.8	筑波大学と締結実績あり。	横須賀地区エネルギーイノベーション創発センターにて実施
日本自動車研究所	参画	短期	2019.7 ～2019.9	なし。	
電子航法研究所	参画	短期・中期・長期	応相談	あり。筑波大学検討中	原則1名
産業技術総合研究所	参画	応相談	応相談	筑波大学と締結実績あり。「技術研修規定」を適用	
防災科学技術研究所	参画	短期	2019.10 ～2020.3	あり。筑波大学検討中	
労働安全衛生総合研究所	未回答				
NCDR	依頼準備中				